

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 きらら守口			
○保護者評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年3月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月14日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の保護者の方の満足度が高いこと。	送迎時などに保護者と利用者の様子を共有したり、必要に応じて電話や連絡ツールを用いてやり取りを行っている。	職員同士で情報を共有を徹底する。
2	限られた空間で多くの利用者を支援できること。	玩具棚を利用して遊ぶ空間を分けたり、視覚支援を用いて利用者に分かりやすくしている。	遊ぶ空間内で遊び込めるよう誘導や声かけをする。
3	それぞれの子どもに合った支援計画を立案し、支援の中で取り組んでいること。	サービス担当者会議に様々な資格や経験のある者が出席している。	様々な意見が出る環境づくりを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各マニュアルについての職員が周知すること。	更新時に回覧しているため記憶に残りにくい。	すぐ手に取れる場所での保管を行う。
2	活動内容の保護者への周知を行うこと。	連絡帳や活動報告など、限られた媒体での周知となっているため。	保護者に活動見学していただく取り組みやSNSなどでの発信の充実を目指す。
3	保護者会や家族会、地域と交流すること。	今年度は事業所内の支援の充実を図ったため。	どのような形であれば事業所と地域との交流が行えるか検討が必要である。 保護者会や家族会においても事業所と家族双方のためになる取り組みを検討していく。